

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100079		
法人名	有現会社 ヘルスサポート		
事業所名	グループホーム若狭の家		
所在地	〒900-0031 那覇市若狭3-4-10		
自己評価作成日	平成 26年 6月 19日	評価結果市町村受理日	平成26年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100079-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年 7月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人が地域の活潑なイベントに参加出来るよう支援します。役割や分担を行なっています。ホームでは、決まりのないスタイルでその人に合った本人らし生活が送れるよう支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念の「地域に根ざした」にあるように、事業所は積極的に地域の文化祭やなんみん祭の行事の準備、片付けに職員は参加し、事業所の1階にある地域交流室は地域に開放しフラダンスの団体など盛んに利用されている。利用者は自分の過ごしたいようにゆったりと時を過ごすなど「本人らしい生き方」を支援している。食事は利用者の要望を聞き献立を決めて、利用者が野菜の下ごしらえを手伝い事業所で三食調理している。系列の医療法人より週1回訪問看護にて健康管理を行い、2週に1度の訪問診療、月に1回の個別診療があり、医療と連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成26年9月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を壁に貼付し、常に確認ができるようにして共有し、実践しています。支援に迷った時は、今一度理念を職員で考え支援しています。	事業所の理念は、職員と共に作成した経緯があり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっており、わかり易い表現である。全職員と共に理念について振り返る機会はないが、設立時からの職員には浸透していて、本人らしい生き方の支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や事業所の取り組みを報告し、日常的に交流しています。誕生会などの時、サークル活動の一環として地域の方々の踊りなどで祝ってもらっています。	地域の行事である文化祭やなんみん祭の準備や片付けに管理者や職員が協力している。保育園生が来所し、しまくとぅばで会話をしたり、高校生のボランティアクラブの生徒達が来てクーラーや部屋の掃除を手伝いし、ハンバーグを手作りする等して利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、活かさきれていない。今後、検討し地域に向けて活かして行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議等での意見等を真摯に受け止めサービスの向上に活かすよう努めています。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共催し2カ月に1回定期的に開催している。利用者、家族はどちらかの事業所からしか参加がなく、地域住民の参加は疎らである。会議では、ケアや活動状況、事故、外部評価の目標達成計画の進捗状況について報告をしている。	利用者が地域で住民とより良く暮らすためには、認知症を理解して環境を整える必要があり、利用者や家族が参加し、地域住民と意見交換をする等、参加への工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で相談し、協力を得ている。また、相談しやすい協力関係だと認識している。	市からは、ボランティアポイント制度や介護保険改正についてのお知らせがFAXであり、情報を得ている。運営推進会議や地域ネットケア会議にて、市や包括支援センターと参加している。併設事業所のケアマネが介護認定等の書類を提出していて、事業所から市へ出向くことはない。	課題解決にむけて一緒に取り組んでいくためにも、行政と日頃から連絡を密に取り、協力関係を築くような取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	事業所の鍵は、日中開錠されていて、鍵をかけずに安全に過ごせるようエレベーター近くに机を置き事務仕事を等工夫している。利用者の自由な行動を制することなくゆったりと声掛けをして支援している。権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。	

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送り時に意見交換等を行っています。また、勉強会後に意見交換等も行っていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、活用出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し理解、納得をえる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いています。また、意見を出しやすい環境を整えています。	利用者と家族が楽しめる会を毎年開催し、今年は心肺蘇生の講習会を開いた後、BBQを楽しむこととしていて、意見を出しやすいよう工夫している。また家族の来所時や、介護認定の更新時のサービス担当者会議において意見を聴く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時に意見交換を行っています。勉強会後に意見交換等も行っていきます。	勉強会終了後に職員と意見交換する機会としている。また、朝の申し送り時と昼食時に職員と管理者は話しているが、管理者は定期的に職員と意見を交わす職員会議を開催したいと考えている。	職員が揃って意見交換する場がなく、意見を表出する機会も無い。介護の質の確保のためにも、定期的な職員会議の開催が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常の職員交換勤務態度を評価し、上司に報告する。また、実践者研修、本人がステップアップできる研修を用意する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会がある。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くはないですが、交流する機会があります。また法人内の相談等は、出来る環境です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞き受容・共感に努めています。また、安心感をあたえられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し受容共感の姿勢で望み信頼関係を築く努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも案内し、家族に決めて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築くよう努めています。時には、母になり、友になり子供になりケアしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々様子を情報交換しながら家族にも協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の人々や家族に協力して頂きできるだけ努めています。	宗教団体に加入している利用者の友人が訪ねてきて、新聞を届けてくれるなどしている。シーミーや旧盆には少しの時間でも家族、親戚と過ごせるよう家族にも協力してもらい、関係継続を支援している。家族から馴染みの人や場所について聞いているが、年々友人知人が少なくなっている。	

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の立場を理解し、互いに出来る事をして頂き支えてもらっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意見を検討している。出来るだけ本人の意向を通せるように検討し、本人らしく生活が出来るよう心掛けている。	利用者がぐっすりいでの時等に部屋で思いを聴いている。レクなども無理強いはしないで、利用者が参加したい時に2階の小規模事業所に向いて楽しんでい。利用者のパズル、ぬり絵、公文等の要望に応じている。困難な場合には、表情や雰囲気、家族に聞き、判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て環境やサービスの適正をモニタリングし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日常生活の過ごし方等を観察し、現状の細かな状態の把握を努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当会議で話し合い、現状にあった介護計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月に1回実施し、職員の意見を聞き介護計画を作成している。家族とは、更新時に要望を聞いて計画に活かしている。管理者は、夜勤を行う職員数も少ないため、夜勤も多くこなし、介護計画作成担当にもなっており、業務過多に陥っている。ケアの記録も文章で記入する方式で要点が解りにくい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の状態は申し送りにて共有行っており実践や介護計画に活用している。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に型にはめるのではなく柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが暮らしを楽しむことが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族に選んで頂き、常に適切な医療が受けられよう情報交換、相互の連携に努めています。	法人の医療機関から健康管理等目的で、週1回訪問看護を9名が利用している。2週間に1回訪問診療と月1回個別診察を8名が受けている。他科受診は、家族対応と同施設内事業所のケアマネの協力で受診している。受診後の情報提供は、口頭で受け、緊急時は、口頭や電話にて主治医に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有し合い相談したりアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報を提供して。病院とは連携を取りやすい関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っております。実際に重度化した場合、家族や医療機関と密に連絡を取りチーム支援を行っています。	医療機関との連携は実施しているが、重度化や終末期に向けた事業所の指針が明確に示されていない。家族から緊急時対応の書面をもらっているが、利用者からの意思確認書等の作成はされていない。また、利用者、家族、関係者と状態変化に応じた段階的な話し合いもされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っています。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施している。それ以外に自習訓練は、数回実施しています。	法人他事業所と共同で、自主訓練を昼夜設定で3回、消防署立ち合いで1回実施している。地域住民へ参加の協力依頼を実施しておらず、参加はない。備蓄は、毛布やおむつは備えているが、食料や水の備蓄はされていない。	非常災害時の備蓄等の備えや地域住民の協力が得られるよう住民への働きかけを行い、協力体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を十分に理解し、個々に応じた対応が出来るよう努めています。	利用者が「家に帰りたい」「家族の面会が少ない」等の訴えに対しても、居室でゆっくり話を聞き、家族へ訪問依頼の連絡を行っている。また、難聴の利用者に対しても、筆談で意思確認を行っている。個別に職員に対し言葉遣いや対応方法等の注意を行い、職員で寄り添うケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で声掛けしたり、本人の行動を制限せずに見守り、希望や思いを出しやすい環境作り、自己決定出来よう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活出来よう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、本人の要望があればマニキュアをして差し上げています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから一緒に考え季節にあった食事などを工夫し、提供しています。	利用者とメニューを相談しながら、決めて、職員が毎日同時帯に買い物をしている。利用者が人参やナーベラの皮むき等の下準備を行い、3食事業所内で調理している。職員は利用者の食事終了後に同じ食事メニューを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎回チェックし、体重は、月1回測り栄養状態の管理を行っている。水分は、管理が必要の方のみ管理している。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来ない方には介助を行い、できる方には、常に声掛けを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者からのサインを見逃さないようにし、自立に向けての支援を行っています。	訴えがある利用者が7名、声かけが1名で、見守りや手引きでトイレ誘導を行っている。夜間もパットを使用し、トイレで排泄行為を行っており、居室内にポータブルトイレを置いていない。事業所内に男女共用トイレが2か所あり、ひもでドアを開けたままに固定し前面にのれんをかけ、もう一つはカーテンのみで、職員が声かけし使用状況を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事の工夫に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意思表示が出来る方には、本人で決めてもらっています。意思表示が出来ない方には、入浴についての声掛けを行い、決まった時間で支援しています。	入浴は、週2回の朝を基本に、本人の意向を尊重して時間帯や曜日の変更を行っている。入浴拒否の場合は、清拭に変更したり家族に促しの声かけを協力してもらい、職員が対応している。利用者から脱衣場が冬場「寒い」との声があり、ヒーター購入を検討したが、火災の恐れがあり、管理者は、冷暖房等の購入ができないか検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、自由に休息を取れるように支援する。頻尿で寝れない方がいるが、夜間だけが睡眠の時間と考えず寝る時寝て頂くなど、本人に合わせることも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めています。必要であれば病院受診時に報告します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中でも声掛けや誘導を行っております。小規模多機能型と交流や協力してイベントなどを提供しています。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力して頂き、できるだけ本人の希望に沿った支援ができるよう努めています。	法人他事業所と車両が共同であるが、桜まつりや浜下り等の季節の行事に出かけている。家族の協力で、ホテルでの食事やデパートでの買い物支援を行っている。週1回は、栄養ドリンクやお菓子の買い物を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の買い物依頼があれば支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から同意頂いて方は、本人の希望により支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を起こさないように環境を変えないようにしています。	CDやラジオで民謡を聞いたり、月に2~3回カラオケで歌うが、食卓で、ゆったりと静かに過ごす生活を望む利用者が多い。廊下や共有スペースがある食堂兼リビングにボランティアや実習生、職員が作成した絵や手工芸が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所の共用空間である食堂で交流されています。一人で過ごしたい場合は、お部屋へ戻られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込み居心地良く過ごされている。方もいるが、安全確保の為に一部取り除かれたかたもあります。できるだけ本人の過ごしやすい環境を提供します。	転倒の危険がある利用者には、ベッドとタンスの位置を工夫し、家具を手すりの代わりにして生活リハビリをしている。居室で居心地良く過ごせるように一人掛け椅子やソファや仏壇、宗教関連品を持ち込み、家族写真や親せきの手作り作品が飾られ、それぞれが思い思いに過ごしている。本人が「閉めたら怖い」との理由から居室ドアを半分開けている利用者が5名いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるよう手すりの設置やトイレ位置分かるようにマークをつける等の工夫している。		